



時枋 報幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第119号

平成26年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇

■枋幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第21回 ピカピカの栃木県 公共施設美化十万人運動の実施

平成26年10月10日(土)・10月25日(土)

第二十一回ピカピカの栃木県(公共施設美化十万人運動)が、十月十一日から十月二十五日までの二週間を基本として、県内の多くの幼稚園で実施されました。

この活動は、栃木県幼稚園連合会と栃木県幼稚園PTA連合会が『家族のありかた』『環境』『公共心』などについて家族ぐるみで考えるために実施しています。

主な内容としては県内の公共施設を中心に、ゴミや空き缶拾い・草取り・落ち葉拾いなど環境美化の要素を含んだ活動です。

実施する幼稚園では、予め危険箇所の確認・交通事故等の安全対策などを行っていました。また、最近では原発事故

に伴う放射線の影響の確認なども行っています。

保護者と一緒の活動に、子どもたちは、「これからごみ拾いをします。」の掛け声に、ごみ袋をいっぱいにしようとの思いや保護者に褒めてもらいたいとの思いなどから張り切ってビニール袋・空き缶・ペットボトル・包装紙・落ち葉などを集めてくれました。

また、一緒にゴミ拾いをした子どもたちからは、
「こんなところに(植え込みの中)ごみがあったよ。」
「(ごみを)誰が捨てたんだろうね。」
「捨てなければいいのにね…」
などの声も聞かれました。

活動後はどの施設も見違えるように

ピカピカになりましたが、普段何気なく利用している公共施設についても家族で話しあうことができ、有意義な活動となったのではないかと感じました。
(総務副委員長 吉水 義浩)



参加園

136園

参加人数

24,631名



毎年、園外保育で利用している益子の森の、ゴミや落ち葉拾いを行った。公共の場をきれいにすることで、一人ひとりが環境美化の大切さを学ぶことができた。感謝の心や奉仕の心にも繋がる良い機会だったと思う。

期日 十月二十四日(金)
場所 益子県立自然公園 益子の森
参加人数 園児・教職員 百十五名
芳賀地区 真岡さくら幼稚園



現行の期間中は各家庭近辺でのゴミ拾いを推奨し、園としては園外保育の際にその日利用の公園でゴミ拾いをしています。

期日 十一月十七日(月)
場所 清原工業団地南公園
参加人数 園児・教職員 五十七名
宇都宮地区 平出むつみ幼稚園

各園の取り組み



いつも利用している観音山公園を、感謝の気持ちで清掃した。

★
期 日 十月二十七日(月)
場 所 かのん山公園
参加人数 園児・保護者・教職員 二百八十二名
佐野地区 洗心幼稚園 ★



可燃ゴミ拾い・空き缶や空き瓶拾い・落ち葉拾い

★
期 日 十月十四日(火)
場 所 朝倉公園(足利市朝倉町二二)
参加人数 園児・保護者・教職員 百三十二名
足利地区 足利短期大学附属幼稚園 ★



日枝神社参道のゴミと落ち葉を拾いました。その後、拾った落ち葉で焼き芋をしました。

★
期 日 十一月十三日(木)
場 所 日枝神社
参加人数 園児・教職員 九十四名
小山地区 静林幼稚園 ★



全園児、保護者、教職員により、園外保育でお世話になっている運動公園でゴミ拾いを実施した。

★
期 日 十月十六日(木)
場 所 栃木市総合運動公園
参加人数 園児・保護者・教職員 五十三名
栃木地区 栃木みどり幼稚園 ★



親子でお散歩気分楽しく活動する事が出来ました。観光地ですが、想像していたよりゴミの量がとても少なかったです。日頃から地域の皆さんが環境美化に努めている事に改めて気づきました。

★
期 日 十月二十三日(木)
場 所 きぬ川幼稚園周辺・滝見公園
参加人数 園児・保護者・教職員 十九名
日光地区 きぬ川幼稚園 ★



全員で分担し、草むしり、落ち葉掃き、空き缶やゴミ拾いをしました。

★
期 日 十月二十三日(木)
場 所 千手山公園・千手観音堂
参加人数 園児・保護者・教職員 百八十三名
鹿沼地区 いずみ幼稚園 ★



林檎狩りの後、なかがわ水遊園の芝生でお弁当を食べた。その後その場所をお借りした感謝の気持ちでゴミ拾いをした。

★
期 日 十月二十八日(火)
場 所 なかがわ水遊園
参加人数 園児・職員 七十名
那須地区 すぎのこ幼稚園 ★



祖父母参観を兼ねての実施。遠くは九州から来てくださった方も一緒に、公園までゴミ拾いをしながら移動。ゴミ拾いだけでなく、公園の花壇に水仙の球根を植え、公園を訪れる楽しみができたようだ。

★
期 日 十月三十一日(金)
場 所 園・矢板駅・長峰公園
参加人数 園児・保護者・教職員 四百四十六名
塩谷地区 すみれ幼稚園 ★

研修会だより

第二回 保育テクニカル講座

期日 平成二十六年九月五日(金)
会場 栃木県総合教育センター
参加 百二十五名
内容 「幼児期からの体づくり
 ～体を動かすことが大好きな子どもを育てよう～」

講師

栃木県教育委員会事務局スポーツ振興課 指導主事 **大山 裕之氏**
 栃木県幼児教育センター 副主幹 **高木 恵美氏**

子ども

たちの外遊びが少なくなり、身体活動量が大幅に低下している。それは、将来的に「生活習慣病の増加」や「ストレスに対する抵抗力の低下」につながり、さらに社会全体の活力や文化継承力の喪失につながる、という指摘があった。そんな危機を回避するためには、幼児期に遊びで体を動かすこと。走る、転がす、投げる、跳ぶ、バランスをとる、など、様々な動きが遊びには含まれており、この時期に経験しておきたい遊びはたくさんある、と教わった。



講義の後に、早速全員で体育館に移動して、体を動かす簡単なゲームを実践。二人組の鬼ごっこや触れ合い遊び、新聞紙ジャンケンや風船を使つてのリレーなど、初めて会った参加者同士でも楽しく体を動かすことができ、子どもたちともすぐに楽しむことができると感じた。時間ができた時や、集中する活動の前など、どんな実践していきたい。

設置者・園長研修会

期日 平成二十六年九月十二日(金)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
参加 百七十一名
内容 「子ども子育て支援新制度について」

講師

文部科学省初等教育課幼児教育専門官 **相原 康人氏**

子ども 子育て新制度の詳細が決まりつつある中、多くの方が期待感を



持って参加した。またその一方では、荒居経営研究委員長のジョークを交えた挨拶で会場を和ませたのが印象的であった。

応諾義務について：新制度は、全ての子どもに質の高い教育・保育を提供する事を目的としていることから障害児などの特別な支援が必要など子どもについても、障害児施策等との連携を図りながら受け入れを進めていくことが基本となる。しかし、一定のプロセス(①市町村計画に基づく受入れ体制の確保②情報公表による受入れ体制の周知③利用者の支援など)を経て、尚、受入れが可能な場合には応諾義務違反には問われない。

利用者負担の設定について：在園児の既納の入園料等と新制度の利用者負担とで重複することとなる分については、特定負担額を新たに設定しない、又はその一部を返還することが妥当。

内容 一、「子ども・子育て新制度への移行に伴い必要な手続きについて」
 二、「私立幼稚園の耐震診断・耐震化について」

講師

栃木県 経営管理部文書学事課 古林 正氏

子ども

新制度移行には次の手続きが必要。
 1、幼稚園の廃止手続き



2、寄附行為の変更手続き
 3、登記済み届手続き
 4、園則変更手続き
 5、その他の手続き
 耐震診断・耐震化に係る補助制度は次の通り。

1、私立幼稚園施設整備補助金 補助率1/3以内
 2、幼稚園耐震化促進事業費 (安心こども基金) 補助率1/2以内

子ども・子育て支援新制度を踏まえた研修会

期日 平成二十六年九月二十二日(月)
会場 二荒山会館(鶴の間)
参加 百四十五名
テーマ 『新制度を目前に、それぞれの現場で取り組まなければならないこと』

発表

認定こども園対策委員4名
 認定すずめこども園すずめ幼稚園 主任保育士 **所 智子氏**

②「保育者のチーム力アップ」
 認定子ども園白百合幼稚園 施設長 **岡村日出子氏**

③「保護者との関係作り」
 さくら認定子ども園さくら幼稚園 副園長 **永田 文子氏**

④「市町との協働」
 認定子ども園あかみ幼稚園 園長 **中山 昌樹氏**





第二回 保育セオリー講座

期日 平成二十六年十月十七日(金)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百四十名
内容 『新制度に向けて 子ども理解と保育者のかかわり』
子どもに寄り添う保育』
公益財団法人幼少年教育研究所
所員 兵頭 恵子氏

講師

新制度
施行に伴い、質の高い保育を行うためには子どもの心の見方、とらえ方を学び、幼児とともに保育者も成長していく事が大切と開催された保育セオリー講座であった。



子どもを理解する上で特に大切な事は「子どもの育ちを知る」事であり、一年間の育ちを五つの時期「①不安と戸惑い、②自己発揮、③自己主張、④仲間意識、⑤自己充実」に分けて考え、自己を育てていくための関わり方や、環境の必要性をひしひしと感じさせられた。

また、身体的、社会的、情緒的、知的、意志的、性格等、さまざまな視点から年齢別にいろいろな事例をわかりやすく説明していただき、和やかで楽しい雰囲気の中で学ぶ事が出来た。

第三十回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修会

期日 十月二十日(月)～二十一日(火)

会場 高松市・JRRホテルクレメント高松
参加 約五百名(うち栃幼連からは七名)
メインテーマ 「明日に向けて私立幼稚園の振興を考える」

記念講演

『希少糖が教えてくれていること』
講師 香川大学特任教授、(株)希少糖 生産技術研究所代表取締役 何森 健氏

行政報告

『私立幼稚園を取り巻く現状と課題』
講師 文科省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育企画官 林 俊宏氏

研究講座(参加者が一講座選択)

・教育「〇歳から五歳の発達から教育・保育を考える」
・振興「これからの私立幼稚園の振興を考える」
・子ども子育て支援新制度を通して市区町村との関係づくりを考える」
・経営「子ども子育て支援新制度における仮単価表について正しく学び、公定価格について考える」
・認定こども園「子ども子育て支援新制度と「認定こども園」の未来について



第三回 保育テクニカル講座

期日 平成二十六年十月三十一日
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百二十一名
内容 『写真で子どもの育ちを語ろう』
写真家、キープ自然学校・清里聖三ハネ保育園園長補佐 小西 貴士氏

講師



前半のグループワークでは、各園で持ち寄った「子どもが輝いている時」の写真について、五、六人のグループに分かれ、お菓子を食べながら話し合うというスタイルで行われた。グループ内で、順番に写真の説明(場面の状況)をしていったが、写真ごとにその園の環境や普段の生活の違いが分かり大変参考になった。和やかな雰囲気ということもあり、どのグループも子どもの話が尽きないようだった。後半は、小西氏によるスライドショーを見ながらの講話が行われた。写真家であり、自然のメッセージを伝える「森の番人」である小西氏の写真からは、自然の素晴らしさ、伸び伸びと自然のままに生きる子どもたちの姿が心に強く響いてきた。今回の研修を通して、写真はただ見るだけでなく、そこに言葉をつけ伝えることで、改めて写真の良さが強まるということが学ばれた。そして、



小西氏の「子どもであるという自然」という言葉は今の大人たちに忘れ去られていた大切なものを思い出させてくれるようだった。

第二十八回 全日幼幼連 関東地区代表者協議会新潟大会

期日 平成二十六年十一月六～七日
会場 ANAクラウンプラザホテル新潟

テーマ

変革の時代を考える～選択のキーワードは子どもがまんなか～

研修Ⅰ『幼保連携型認定こども園教育・保育要領について』

講師 國學院大學教授 神長美津子氏

研修Ⅱ『子ども・子育て支援新制度について』

講師 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 淵上 孝氏

研修Ⅲ『私立幼稚園の現状と課題』

担当 各県私学行政担当官 (栃木県からは古林 正副主幹)

研修Ⅳ『落語に学ぶ笑いコミュニケーション』

講師 落語家 三遊亭白鳥氏

研修Ⅴは正副理事長、常任理事が参加し、各県の子ども・子育て新制度に向けての現状と課題について、各県行政担当者を交えて研鑽した。



平成二十六年 関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会栃木大会

期日 平成二十六年十一月七日(金)
会場 栃木市文化会館
栃木みどり幼稚園

参加 二十八名(幼稚園部門)
大会主題

自ら考え自ら学び 未来を切り拓く
子どもの育成へ豊かな心と確かな
学びを育む教育メディアの活用

園研究



主眼を「自ら考え、自ら関わる、自分らしさとの出会いのために」子どもの主体性を効果的に引き出すための放送視聴覚メディア・視聴覚教材の活用とは」と定め、各学年の公開保育と研究発表が実施された。各学年の研究及び公開保育の内容は次の通り。

〈年少〉楽器をつくるうー自分の思いを表現するには

初めて幼稚園という集団に入っ
子どもたちに、自分が思っているこ
と、やりたいことがのびのびと表現
できるための教育放送活用につい
て。

〈年中〉絵を楽しもうー自分と友
だちとのより良い関わりを求めて
個から集団への発達段階になる年
中時に、一人ひとりが主体的に活動
しながら、自分らしさを出しつつ、
絵の活動を通して、人と関わりを深
める研究。

〈年長〉お話の世界を楽しもうー概
念の確立と他児との関係について
絵本、紙芝居、

放送教育番組、教
育ラジオ番組それ
ぞれの特性や活用
方法。さらに子ど
もの話をイメージ
(概念化)する
力を観察し、その
能力と他児との関わりに関係性がある
かの検証。



公開保育後のカンファレンスでは、栃幼連教育研究委員長小倉庸寛先生からご挨拶をいただき、その後パネルディスカッション形式で、一年間の研究や公開保育について討議された。テーマ設定理由や研究方法、成果や課題などが各担任からの発表があった。放送・視聴覚教育の活用は、我々にとっても重要であること、会場全体で確認をして閉会した。



宇都宮大学教育学部附属幼稚園
公開研究会

期日 平成二十六年十一月十五日(土)
会場 宇都宮大学教育学部附属幼稚園
参加 九十名

「豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境」言葉に目を向け
て」という研究課題を掲げ、
公開保育と保育研究、保育研究発表
と講演会が行われた。

午前中は各学年ともに、子ども同
士の係わりや対話を促す、季節を考

慮した適切な
環境づくりが
なされており、
保育研究での
活発な意見交
換がなされた。
午後には、
附属幼稚園教
諭坂本修子先
生が保育研究
発表を、津金
美智子先生(文
科省初等中等
教育局視学官
他)が「幼児
なりの言葉を
育む環境を考
える」をテー
マに講演会を
され、それぞれに幼児期の言葉に対
する深い洞察がなされており、実
に学び多い会となった。



設置者・園長研修会

期日 平成二十六年十一月六日(水)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
参加 百四十三名
講師

山梨県私立幼稚園連合会会長
学校法人聖愛幼稚園 理事長・園長
鈴木 信行氏

甲府市
の現状と
新制度移行に
向け、わかり
やすくユーモ
アを交えなが
ら説明して頂
いた。聖愛幼



幼稚園は、○歳児を除く未満児を小規模保育で預かる幼稚園型認定こども園となる。小規模保育や一時預かりの大切さ、地域子育て支援拠点を利用している園児確保、放課後児童クラブでの子ども達の育つ環境等話された。特に小規模保育は、地域型給付として新制度に移行しない幼稚園や新制度の幼稚園は有効である。

地域の子ども達をいい環境で育てるために幼稚園の重要性が増している。そのための制度が動きはじめた。まだまだ未完成だが地域のために有効に使うしか方法がないと考える。

文書学事課 副主任 古林 正氏

(1)幼稚園運営費補助金配分基準の見直し
(2)特別支援事業補助金
(3)園舎の耐震診断
(4)私立幼稚園施設整備(国庫補助)について説明された。



こども政策課 副主任 野口 善幸氏
(1)認定こども園に対する施設型給付は大幅な減収。九月に知事名で要望書を提出。

国は幼保連携型認定こども園について特例的な処置をする方向にある。

(2)幼保連携型認定こども園の学級の編成、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定等資料を元にわかりやすく説明された。





平成27年度 予算要望書

団 体 名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新 の 別	要 望 事 項	
		現 行	要 望
1. 予算に関する要望			
【要望1-1】運営費補助金(学校法人立)の増額 私立幼稚園の経営の健全化、幼児教育の質的向上を支える運営費補助金について、国に準じて増額を確保するとともに、群馬県、茨城県などの県単補助金の増額を要望します。	継続	園児1人当たり 181,100円 国庫補助 23,005円 地方交付税153,200円 県単補助 4,800円	園児1人当たり 189,400円 国庫補助 23,302円 (予定) 地方交付税156,000円 (予定) 県単補助 10,000円
【要望1-2】教材費等補助金(102条)の増額 102条園(宗教法人立・個人立)の幼稚園は、大変厳しい財政状況の中、学校法人立園と同様の設置基準に基づいた幼児教育をしています。運営費補助金の1/2補助に向けて増額を要望します。	継続	園児1人当たり 39,100円	園児1人当たり 50,000円
【要望2】特別支援教育費補助金の増額 現行制度では、対象児が2人の場合は1,568,000円となりますが、1人の場合は392,000円と1/4になってしまいます。この補助額では教員を加配して対象児に必要な教育的援助を行うことは不可能です。国庫補助の対象とならない「対象児が1人の場合」「学法定以外の場合」であっても、県単補助による同額の補助を要望します。	継続	総額 438,256千円 ・学法定で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 392,000円 (県単補助)	総額 462,560千円 ・学法定で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 784,000円 (県単補助)
2. 政策に関する要望			
【要望3】子育て支援事業等への財政的援助の充実			
①第3子以降に対し、同時在園でなくとも補助対象となるよう、現行制度の拡充を強く要望します。	継続	小学校3年生以下の兄弟姉から数えて第3子	兄弟の学齢等の条件撤廃または年齢引き上げ増額
②仕事と子育ての両立支援のために、預かり保育に対する一層の支援を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	
③より多くの幼稚園が地域の子育ての拠点として充実できるよう、さらなる財政的援助を要望します。	継続	子育てランド事業	増額
④102条園(宗教法人立・個人立)の幼稚園子育てランド事業、わんぱく保育推進事業について、県単独補助金の継続を要望します。	継続	地域子育て推進事業	県単補助部分の増額
⑤園舎の耐震診断、耐震補強等にかかる費用の助成を要望します。	継続	幼稚園耐震化事業費	継続
【要望4】教員の資質向上を図るための栃幼連の研修事業への助成の増額と、子ども子育て支援新制度対応の研修事業への助成の継続	継続	栃幼連補助金 3,000千円 幼稚園特別研修費補助金 3,000千円	増額 継続
【要望5】新制度に関する国への働きかけと移行園への支援			
①新制度への移行を希望するすべての幼稚園が、せめて現行制度水準の経営が保障されるよう、国に対して公定価格等の見直しへの働きかけを、県として強力に進言していただくことを要望します。	継続		継続
②新制度への移行園が、幼児教育の質の向上と持続的な運営が可能となるよう、栃木県独自の財政的支援策(特に教員加配等の人件費部分への助成)の実現を要望します。	新規		例：教員加配事業補助金

●27年度予算要望書について

平成27年度からスタートする新制度。県内の幼稚園の動向は、4割弱が新制度へ移行し、6割強が私学助成の幼稚園として継続する見込みである。それらを踏まえ、11月21日に自民党政策懇談会に、12月4～5日に福田知事、螺良議長、神谷政調会長に、特に、運営費補助金と特別支援教育費補助金について県単補助部分の増額を強調して、上記の通り要望書を提出させていただいた。栃木県の子どもたちのために、共に手を取り合ってがんばっていきましょう。



振興委員長 馬場章信



幼児教育センターだより



スキルアップセミナー

《保育に生かせる表現運動》

十月十六日に、スキルアップセミナーを開催しました。



午前中は、幼児運動指針の策定ワーキンググループ委員である岐阜大学の春日晃章准教授から、「子どもの遊びと体力」をテーマに講話がありました。子どもの体力低下の現状とその後の影響を踏まえ、体力向上のために幼児期にどのようなことを大切にして保育を展開すれば良いのか、お話をいただきました。終始熱い語り口に、どんどん引き込まれ、心動かされた研修者が多かったようです。続いて、幼児教育センターより、幼稚園教育要領等を読み解きながら、幼児期の体づくりについて解説しました。

午後は、体育館で宇都宮共和国大学の河田隆教授より、実技がありました。午前中の講話にもあったボール遊びを、一人で、ペアで、グループで、と人数を変えながら紹介いただき

きました。また、ボールをつくこと、キャッチすることなど動作の基本についても丁寧な説明がありました。

研修者からは、「体力の低下がどこからきているのか、どうしていくべきかが分かった。」「いろいろな遊びが子どもたちから生み出される環境づくりをしたい。」「体力の向上は、心を育てることにもつながる。」「講話と実技がつながっていて、考えながら行うことができた。」「など、体を動かす心地よさの大切さを再認識し、明日からの保育に生かしていこうという前向きな感想が多く寄せられました。



特別支援教育研修

「一人一人と集団を育てる特別支援教育」をテーマに、九月二日、十一月七日の二日間の日程で行いました。また、第一日と第二日の間に研修者の実践も取り入れました。

第一日には、宇都宮大学の司城紀代美先生より、様々なエピソードを交えながら、これからの特別支援教育の視点の持ち方について講話がありました。続いて、幼児教育センターより、幼稚園教育要領等を踏まえ、



幼児期における特別支援教育について確認しました。午後には、県内の幼稚園・保育所の先生方から、環境の工夫、園内支援体制、関係機関との連携、保護者支援について実践発表があり、今後の取組の参考となりました。

第二日には、三々四人の班で、実践の報告とそれに基づいた協議を行い、午後には、「明日から私ができること」をまとめました。その後、総合教育センターの教育研修専門員から全体講評と県教委特別支援教育室から県内の体制整備についての情報提供がありました。

「支援児をみるときに、できる、できないということではなく、支援児の育ちと集団の育ちの関係でとらえるようにしました。」「支援児のかかわりをクラス全体で楽しめる集団にしていきたいです。」など、新たな視点で子どもを支援し、よりよい集団づくりをしていこうとする声が多数寄せられました。



★お知らせ★

次年度より、基本研修として、幼稚園教職5年目研修(仮称)を実施する予定です。(実質2日程)詳細は、追って御連絡いたします。御理解、御協力をお願いします。



これからの研修

●スキルアップセミナーⅡ

《発達と学びをつなぐ要録の作成と活用》

平成二十七年二月九日(月)

講話「要録の意義と役割」

十文字学園女子大学幼児教育学科 准教授 野口 隆子先生 講話・演習

「発達と学びをつなぐ要録の作成」
★幼児教育センター研修案内より、お申し込みください！

総合教育センターからのお知らせ

●平成二十六年度

柘木県教育研究発表大会

《幼・保・小連携部会》

平成二十七年一月三十日(金)

十二時～十五時三十分

テーマ「幼児期の子育て支援・保護者支援と小学校のスタートカリキュラム」

発表1 幼稚園における子育て支援の在り方

発表2 保育者の資質向上を図る小学校における保護者対応の取組

発表3 対応の取組

★柘木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！



学事だより

県文書学事課

**運営費補助金及び教材費等
補助金に係る変更交付申請
書の提出について**

本年度に入園した満三歳児分等の
変更交付申請書の提出については、
運営費補助金、教材費等補助金とも
に一月下旬を予定しています。詳細
については、別途文書でお知らせし
ますので、期限内の提出をお願いします。

**「二月の始業日現在園児数調べ」
の実施について**

前述の運営費補助金及び教材費等
補助金の変更交付申請に関し、例年
どおり一月初旬に、一月の始業日現
在における在園児数調査を行います。

照会から交付まで短時間での作業
となりますので、提出期限厳守でお
願います。

**子育てランド事業に係る実施
記録について**

子育てランド事業を実施している
幼稚園においては、各実施事業の参
加人数や活動内容等の記録を実施報
告書提出時に添付していただきます
ので、実施園においては必ず記録を
取っていただくようお願いします。

園舎の耐震診断の実施・耐震 化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診
断の実施・耐震化が求められています。

本県の私立幼稚園の耐震化率
は、平成二十六年四月一日現在で
七十一・一％（暫定値）ですが、平
成二十五年四月一日現在の全国平
均七十八・八％と比べ、依然低い数
値となっています（平成二十六年四
月一日現在の全国平均は今後公表予
定）。

県ではこれまで、**国庫補助制度や
安心こども基金**による補助事業をご
案内しており、多数の幼稚園にご活
用いただいているところです。

しかしながら、平成二十七年年度の
補助制度の動向として、国庫補助制
度は継続される見込ですが、安心こ
ども基金事業は、国において見直し
等の検討がなされているところだ
す。今後の検討結果につきますして
は、速やかに情報提供していきます
ので、引き続き園舎の耐震化に取り
組まれますようお願いいたします。

また、園舎の耐震化に際し、耐震
診断の費用負担の軽減について、お
問い合わせをいただきますが、**日本
私立学校共済・振興事業団や（公
財）栃木県私立幼稚園振興財団**が実
施する施設資金等の貸付制度の活用
もご検討の一助となるのではないかと
考えています。

今後とも、安全・安心な教育環境
の提供をお願いいたします。

平成二十七年 一月～三月までの事業計画

1月6日	※10年経験者研修 設置者・園長研修会
1月16日	全日私幼連 全国研究研修担当者会議
1月21～22日	第61回 栃木県幼稚園教育研究大会
1月31日	スクールバス安全運転講習会
2月6日	※連携推進会議
2月9日	※スキルアップセミナー
2月16日	設置者・園長研修会 ※は幼児教育センター事業

平成二十七年年度 主な事業計画

5月15日	栃幼連 通常総会
7月8日	栃幼PTA連 総会
7月12日	就職説明会
7月30～31日	第62回 栃木県幼稚園教育研究大会
8月4～5日	第30回 全日私幼連東地区教研大会（茨城）

慶事

● 那須地区
学校法人ひかり学園
創立五十周年記念親子鑑賞会
十一月十三日

* 県大会予告 *

栃幼連 第61回県大会

平成二十七年一月三十一日（土）

● 開会式
● 講演会
講師：玉川大学教育学部
教授 大豆生田 啓友氏

● 公演会
講師：ケロボンス（増田 裕子氏・ケロ・
平田 明子氏・ほん）

会場：栃木県総合文化センター・メインホール

編集後記

「いーじゃないの～～」「だ
めよ、ダメダメ」
いつの間にか、目の前の園児
たちが上手にまねをし出して、
かなりの期間が過ぎようとして
います。妖怪の名前もテレビの
影響でどんどん変わりつつあつ
て、興味関心はもちろん、吸収
力の高いこの子どもたちと、「事の
善し悪し」「古き良き物？」「本当
の話と嘘の話」等の話が、以前に比
べてしにくくなったなと感じていま
すが、皆さんはいかがですか。（年齢
のせいでしょうか!!）

いよいよ子ども子育て新制度への
移行への動きも本格的になり、それ
ぞれの園が対応に四苦八苦している
時ですので、それどころではないと
いうのが本音かもしれません。幼稚
園の仕組みが変わっていくと、動き
も様々になり、各種の意見交換もま
まならない事も出てくるのでしょ
うか。様々な点で勉強不足のためか、
こちらの点でも不安を感じてしま
います。

ただその一方で、いろいろな研修
でお会いする先生方が、園児のため
に、保護者のために、そして教職員
のために言葉を発していただける
ので、ほっとしている自分にも気づ
きます。

そして改めて、「未来の素敵な大
人たちに多くの夢あるメッセージを
残せるよう、今はただ、日々の保育
に邁進していかなければ」との想
いを強くしているところです。

（田崎 容子）